

ICT 活用連続講座 3「個々に対応する映像教材作りを」 講師 廣瀬 正彦 氏
(こ・めでいあセンター)

～デジタルビデオ、デジタルカメラの基本的カメラワークから、PC への取り込み、
編集、加工、オーサリング、製品化まで～ に参加して。

高槻市立第 1 中学校 岡崎あかね



講座 3 に参加して、今まで養護学校の先生とともにカリキュラムを作る機会がなかなか無かったので、今回の講座は、とても新鮮でした。

1 日目：主題の構想を練り、取材することの意味。

まず最初にグループで話し合い、テーマを決め、起承転結を考えに入れてストーリーを決めることから始まりました。

次に実際にデジタルビデオを操作して編集するために、編集ソフトをインストールして動作確認をしました。

ここで制作のねらいをはっきりとし、何を伝えたいのか構想を練るために、ペンと紙で 4 コマ絵コンテを描きました。

この場面で構想をしっかり練ることは、デジタルビデオを使ってカメラワークを定めるときにも、とても必要なものであるということを撮影しながら実感しました。何を写すか、どう写すか、カメラア

ングルは、など最初の構想を常にイメージしながらグループで撮影しあいました。

2 日目：編集

さてデジタルビデオの映像をパソコンで取り込み（キャプチャー）、編集する作業に入りました。トータルで 1 分間のビデオにまとめるので、編集ソフトを使って必要な所、不必要な所を取捨選択し、映像をひとつのエッセンスにまとめる作業です。文字や効果音を取り入れ編集していきます。ここでも、最初の構想をしっかりイメージしながら、効果音や映像におぼれず的確に表現することが大切でした。そしていよいよ CD-RW で VCD 形式に書き込み、発表の準備ができました。



3日目：品評会

参加した者がそれぞれ自分の作品をプレゼンしながら交流し、講師の廣瀬氏が、それぞれにコメントをしながら、品評会は進んでいきました。

同じテーマでもカメラワークや編集の仕方によって、表現の仕方も変化し、情報の伝え方も違ってくるのが、印象的でした。

午後からは、公開ディスカッションでした。テーマは「ICT活用の課題と今後」。それぞれの参加者が一人ずつ自己紹介しながら、普段考えていることや、悩みや希望などをフリートーキングしあい、時間がまたたくまに過ぎ去りました。

普段の授業実践でぶつかる悩みや疑問を相談するのにも遠いと感じていた、心の垣根を少しでも崩すことができ、崩し方が見え、本当に充実した3日間でした。

この3日間をセットするために、講師の先生方を初め、皆様本当にありがとうございました。力が湧いてくる研修でした。（2003.8.15）



ICT講座 - 3 「個々に対応する映像教材作りを」

八尾養護学校 工藤

廣瀬正彦先生のお手伝い兼、研修の受講者として参加させていただきました。パソコンとカメラ撮りはそこそこ慣れているつもりでしたが、デジタルビデオデータを扱ったことがわずかしかなく、ユーリードの「ビデオスタジオ6」を全く知らなかったので廣瀬先生に聞いたり、木原先生に聞いたりして、かえってご迷惑を掛けてしまいました。

講座はとても楽しく面白く、集中できて内容の濃い3日間でした。初日のカメラワークの説明、長年の蓄積のノウハウを惜しげもなく、わかりやすく教えていただきました。絵コンテの重要性も教えていただきました。これが午後、撮影開始した時、映像作品作りにもっとも大切だとわかりました。みんなで一つの絵コンテを見ながら、「ああだった、こうした方がよい」と修整を加えていき、カメラマンも、演技者も皆、絵コンテを再確認してから行動していくのですから。

午後の撮影では5名のグループで私は監督をさせていただきました。我々は一つのテーマで「信号機の色を見て進む止まるを学習する」というものでした。4人は女優でアシスタントディレクター(AD)、迫真の演技が良かったです。ADとしても、この赤信号は2分です、5秒前から撮りましょうと、優秀でした。絵コンテは1人が作成していて、カメラは3人ほどで交代して撮りました。カメラになった人はみんなそれぞれ「脇を締めてとか」教えられたカメラワークを思い出しながら撮影していました。信号機の大きさは肉眼で見るよりテレビ画面で見るときはあまりに小さく見えるので、ズームアップしてもらうことにしました。その時のカメラマンは「ズームより足で寄った方がよいと言われました。」と言われるのですが、道の真ん中までカメラをのぞきながら歩くわけにもいかないので、セオリーをはずしてズームをしてもらうことにしました。どのカメラマンもズームを使用するのは難しかったようです。これは後日の品評会で廣瀬先生はカットでつなぐのが普通ですがこの場合はズームの方が良かったと言って下さいました。

2日目はデジタルデータのパソコンへの取り込み、「ビデオスタジオ6」を用いての編集作業でした。これは省略しますが、パソコンの動作とか能力について限界を感じました。画像がかくかくと、引っかけり、音声がぶつぶつと、途切れてどのパソコンもスムーズではないのです。これはすぐにメモリが足りないのだと思いました。どれも128MB位しかないのです。これでは足りません。Windows 98・SE・Meなどは256MB以上にして、XPは512MB以上にするのが良いと思います。もちろんワープロ、表計算など普通に使っているものは標準で何の問題もありませんが、映像を扱うと、途端に足りなくなるのです。使っているハードが皆ノートパソコンであるからでもあるのです。

デスクトップ型に比べると同じ速さ（CPU）であってもノート型が遅くなるのです。それはグラフィックボード（ビデオボード）の違いです。デスクトップは、より早いグラフィックボードに替えたり、専用メモリを多くしたり出来ますが、ノートはメインボード内蔵であり、メモリも本体メモリを流用しているのです、どうしても遅くなってしまいます。

3日目は品評会で、各グループや個人で内容を考案し撮影して編集したものの発表です。みんなそれぞれ、子供のことを視点に入れた内容となっていました。グループで一つのコンテに基づき撮影した映像でも、編集段階で個人によって、タイトルの付け方、説明文字の挿入、カットつなぎの効果の違いにより、ずいぶん違った印象の作品になっていました。それぞれの作品について廣瀬先生が一つ一ついいに評価を与えて下さいました。撮影の仕方により、またできあがった映像の効果により、教育的効果が違ってくるといってお話をして下さいました。初日の撮影方法と重なるのですが、カメラを出来るだけ固定してゆらゆらと揺れないように、カメラを傾けて撮らないように、「信号」のグループがこうなっていました。）パンニングは出来るだけゆっくりとするなど、基本的なことをそれぞれの作品を評価しながら教えて下さいました。ズームについては出来るだけ使わない方がいいのですが、「信号」のテーマについては、子どもへの教育効果を考えると、あの信号は赤だとかこの信号が青になるのを待つということで、カットつなぎより連続性のあるズームの使用の方が良かったと言って下さいました。

